【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成19年11月22日(2007.11.22)

【公開番号】特開2006-110455(P2006-110455A)
【公開日】平成18年4月27日(2006.4.27)
【年通号数】公開・登録公報2006-017
【出願番号】特願2004-300079(P2004-300079)
【国際特許分類】
Ｂ０１Ｄ　39/16　(2006.01)
Ｂ０１Ｄ　39/00　(2006.01)
Ｂ０１Ｄ　39/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０１Ｄ　39/16　Ｅ
Ｂ０１Ｄ　39/16　Ａ
Ｂ０１Ｄ　39/00　Ｂ
Ｂ０１Ｄ　39/14　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成19年10月5日(2007.10.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
濾材表面に耐熱性短繊維を耐熱性樹脂にて溶着してなるフィルタ。
【請求項２】
濾材と、濾材の表面に溶着された低融点の第１の樹脂よりなる第１層と、第１の樹脂層の上に固着形成され、第１の樹脂より高融点の第２の樹脂と耐熱性短繊維との混在よりなる第２層とからなるフィルタ。
【請求項３】
濾材表面に耐熱性短繊維と、乾燥時の温度より実質的に低融点の第１の樹脂と第１の樹脂より高融点の第２の樹脂との分散液を含浸後乾燥固化して形成してなる被覆層を有したフィルタ。
【請求項４】
単糸繊度が０．３～２０DTEXで目付が８０～９００ｇ／ｍ^{2}の繊維集合体より構成された濾材と、濾材の表面に溶融形成されたポリイミド樹脂層と、ポリイミド樹脂層の表面に形成されたフッ素系樹脂及び耐熱短繊維を含む混合層とを含み、前記耐熱性短繊維は単糸繊度が０．２～１０DTEXである長繊維を０．４ｍｍ～５ｍｍの範囲の長さにカットしたものであるフィルタ。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の発明において、前記耐熱性短繊維はガラス系繊維、シリカ系繊維、耐熱イミド系繊維、アミド系繊維から選ばれる一種以上であるフィルタ。
【請求項６】
耐熱性繊維を所定長にカットし、カットされた前記耐熱性繊維をフッ素系樹脂微粒子及びポリイミド樹脂微粒子を含む分散液に混合し、この混合液に濾材を含浸し、混合液含浸後の濾材を樹脂を固定するべく加熱処理するフィルタ表面加工方法。

【請求項７】
耐熱性繊維を０．４ｍｍ～５ｍｍの範囲の長さにカットし、カットされた繊維をフッ素系樹脂微粒子とポリイミド樹脂微粒子を含む分散液に混合し、この混合液に濾材を含浸して、混合液を含浸後の濾材を１５０℃～３３０℃の範囲の温度に加熱して樹脂を固定乾燥することを特徴とするフィルタ表面加工方法。